

第4回安来市創生総合戦略会議

平成27年10月8日（木）午後2時～

安来市消防庁舎 会議室

1. 会議成立報告

2. 議 事

(1) 安来市人口ビジョン（案）について

(2) 安来市総合戦略（案）について

その他

開会の挨拶

（事務局）

全国の自治体では10月末を目途に人口ビジョンと総合戦略の策定が急がれているところである。島根県においても今開催されている県議会の中で、最終案について説明があった。知事の方からは、「子育てしやすく活力ある先進県」ということで、若い人たちが県内で安心して働ける雇用の場が増えるような産業振興の推進と全国的にも先進的な子育て支援を行い、若い人たちの仕事と子育ての両立を推進していくということで県議会に報告があった。安来市においても本日、ほぼ最終的な人口ビジョンあるいは総合戦略を委員の皆様にお示しをしながら、最終的なご意見を賜り、補強していきたいと思っている。来週火曜日には議員懇談会があり、議員に説明し、その後パブリックコメントをかけ、10月30日には議会の全員協議会で承認を得たいと考えているので、本日は皆様の関連な意見をいただきたい。

（会長）

先ほど挨拶いただいたとおり、県の方も人口ビジョンが出て、今70万人程度のところが47万人というところを見越すということで、それでも厳しいと。そういう話を聞くにつけ本当に過疎からの脱却というか、これからどうやっていくのだろうという不安に駆られるところだ。そのなかで総合戦略を皆様に議論していただき、大体のものができた。今日が審議会の最終日なので、本当にあとにご意見を付帯することしかできない。昨今の報道で総合戦略の内容如何によって補助金の額が決まると聞いていると、これでよかったのか、もっと具体的なもの、戦略的なものを打ち上げる必要がなかったのかということを思う。最後とはいえ、これ以上何もかまえないということはない。皆様の意見を拝聴して載せられるものは載せられるようにしたいと思う。

1. 会議成立報告

19名の出席となっており、「安来市創生総合戦略推進会議設置要綱」第6条第2項の規定により本会は成立。

2. 議 事

(1) 安来市人口ビジョン（案）について

事務局による説明（資料①）ののち質疑。

（会長）

事務局より人口ビジョンについて説明していただいた。特に最後の目標とする人口3万人というところで、前回も様々な意見をいただいた。議会からも3万人くらいが適当という意見があったということもあり、変わらず3万人という目標設定で据え置いている。そういうことも含めて、人口ビジョン（案）についてご意見を伺いたい。

（委員）

最終稿ということで、全体を過去の経緯を無視して読んでみると、全体の書いてある内容がマイナス思考、人口が減るのは仕様がないうという書き方がしてある。もともとの趣旨は今のうちから手を打っておけば、人口が必ず将来止まるという趣旨だと思う。それをもっと強く書くべきだと思う。できれば、はじめにというようなところでもっと肯定的に今から手を打てば人口は将来必ず止まって減らないんだということをもっと肯定的に、積極的に書いていく必要がある。

もう一点は、前回も質問したが、水平にすること、つまり減らないようにすることが目的ではなかったのか。2060年3万人というのが目的ではなくて、もともとの人口ビジョンというのは水平にすること、つまり減らないようにすることが目的だったように思う。であるとすれば36Pのグラフは減る方向になっている。水平を見せてほしい。2100年になるかもしれないが、それはグラフの作り方なので、例えば対数グラフにするとかそういうふうなことをやれば水平部分も出てくると思うので、今から手を打てば減らないんだというところを見せていただきたい。

（事務局）

人口が水平になるというところだが、シミュレーションではだいたい2110年あたりで水平になるという推計になっているので、そういった部分を見せていくことは可能だと思う。もう一点、書いてあることがマイナス思考でもっと強く書くべきということで、今から手を打っておけば人口は減らない、いつかは水平になっていくということをもっと強く書くべきという辺は検討させていただきたい。

（会長）

何人になって水平になるのか。

（事務局）

28,000人で平行になる。

(会長)

2.07 という出生率が維持できたらの話か。

(事務局)

その通りである。

(副会長)

29Pの「人口減少の抑制に向けて」という表現がネガティブなので、もう少しポジティブな表現になるとよいと思う。例えば「持続可能な…」など。人口減少抑制というのが大きなビジョンとして掲げられているのはさびしい感じがする。

(委員)

人口ビジョンと国からの支援の関係だが、人口ビジョン（人口目標？）を下げたらかなり影響するのか。

(事務局)

人口目標と国の交付金はない。

(委員)

確かにネガティブな文章が非常に多いとは思いますが、36Pのグラフ自体が決してマイナス要因だとは思わない。こういうグラフは途中で変更していかなければいけないので、必ずしも高い目標だけがいいとは限らない。

2Pのグラフで鳥取県は現在に至るまでほぼ水平ラインにいる。なぜ島根県と差がでているのか。私は40年くらい鳥取県で仕事をしており、市とか大きい町は人口の増減はあるが、そんなに大きなものはない。どちらかという中山間地域、田舎の方の人口が止まっていると思われる。どういうことかという鳥取県の場合は、道路行政がすごく早く、山間地に手厚い道路事情を作った。その関係で車社会になったために、そういうのが維持できているとみられると考えている。そういうふうにみるとビジョンが必ず施策とセットになるので、こういうビジョンを作ったらそれに施策がどのようにでてくるのかが大事だと思う。

(会長)

私が冒頭で申し上げたのは、国は今1億2千万人というのが2060年に1億人までの減少にとどめるという目標がまずある。それから今回の総合戦略というものを各自治体が出してくる。その中の内容をみて、有効な案を出したところには交付金を出そうというようなところが報道でみられる。人口を高く設定したかではない。

(委員)

あまりポジティブにしすぎるといけない。実際はこのままほっておいたら、市の体をなさなくなるということを伝えていくものでもあるべきだ。

(委員)

2013年～2015年の特殊出生率の見込みはわかるか。2012年の1.56と比べて上がっているのか、下がっているのか。もし、変わらないのであれば、目標2020年1.60というのが0.04しか上がらないのかということを言いたかった。10年間で0.2ポイント上げるという

のは大変なので・・・総合戦略にある毎年産まれてくる数と整合性はあるのか。

(事務局)

合計特殊出生率の目標から逆算するとこのくらいの出生数になるという計算になっている。

(委員)

できるだけ計画を前倒しできたらいいというのが私の意見だ。

(委員)

目標値 3 万人は今の段階では適当な数値ではないかと思った。合併してから 10 年、確実に人口は減ってきている。3 万人という目標が達成できるかどうかは今の段階では皆わからないわけで、ただ、目標なので設定した限りはこれから先の 2060 年までのなかで、この内容を見直して、悪ければ修正していく作業は必ず必要になる。5 年経って検証して駄目ならまた次の数値目標を立てる。出生率が駄目だったら他のところで人口を維持する施策をうつということを繰り返していかないといけないと思う。私としては、人口ビジョンはこれでいいのではないか。後は戦略の中身が重要だと思う。人口ビジョンを議論するよりは、戦略をしっかりと議論したほうが良いのではないか。

(委員)

目標値を達成するための施策なので、最初に目標値ありき。達成できなかつたら、どうやって・・・また、別途考える。達成が遅ければ遅いほど水平になるのがどんどん後になっていくはずなので、減り方もひどくなる。そのへんは絶対守るのだ意識が必要だ。

(委員)

それは必要だと思う。私から言わせてもらえば、社会増減の I U ターン者年間 126 名 4.5 倍はべらぼうな数字だと思う。次の施策をどう打ったとしても、これがどうなるか。出生率云々より難しいのではないか。ただ、これを今、126 を 100 にするのか、あるいは 80 にするのか議論をしても始まらない。これをとにかく目標値ということで、次の展開をどう組むかという戦略を練った方がよい。

(会長)

いろいろなご意見をいただいた。目標値については提示いただいた人口ビジョンではないかという気がする。委員会としてもまとめていきたいと思う。ただ、ネガティブな方向にばかり文言が向いているところについては、もう少し考えていただきたい。

(2) 安来市総合戦略(案)について

事務局による説明(資料②)ののち質疑。

(会長)

最初に皆様に申し上げておきたいことはこの委員会はこれで終わりではないということだ。この委員会は本年度が終了した後、総合戦略が発動した後、これを俯瞰する、検証するといった意味で、次年度も続く。同じメンバーで続いていくことが前提としてあるので、

ここに出てきたこと、あるいはここで挙げているような施策、それらをもう少し具体的にだとか、どういうふうになっているかとかを検証していくことはできるということは念頭に置いていただきたい。

先ほど説明を伺っていて思ったのは、例えばC C R CとかK P I、W i - F iといったものの説明があまりない。K P Iは人口ビジョンのところに注意書きがあったが、ページのところで説明書きを加えた方がよい。

皆様のご意見を伺いたい。

(委員)

具体的な施策のK P I が気になるが、これは例として挙げているのか、それとも決定なのか。例えば 15 P 学校教育の充実のところで、人口ビジョンを達成するための総合戦略だと思うが、その重要業績評価指標が英検の合格者割合というのが全く理解できない。子育て協働プロジェクト事業をするのであれば、・・・この評価指標にした意図が理解できないところが何点かある。

(会長)

この指標についてはダミーではなく本チャンのものと理解していただきたい。私も同じような意見を持った。特にこの英検 3 級は、何の意味があるのかと思っていた。他の皆様も疑問に思われる指標があると思う。それをどう作ってきたかということを説明願う。

(事務局)

K P I を設定するにあたり、極力実数を求めるような形でK P I を作るようにもってきた。英検 3 級というのが数少ないパーセンテージを使ったものだった。学校教育の充実・グローバル人材の育成において、英検 3 級をなぜ設定したのかということについて、これは基本目標 1 になるので若い世代の結婚・出産・子育てを支援するといったところのなかで、子供を育てていかれる環境のなかでの学校教育というところで、何かしら特色がなければいけないのではないかというのが、内部での議論であった。その中の一つとしてグローバル人材の育成ということで外国語に触れることと指標には表れてきていないがふるさと教育を実施するといったところを考えると、選択肢としては悩ましい所ではあったが英検 3 級合格者の割合を一つの指標として設定している。

(委員)

私も同じ意見で、子供たちが主体的に学ぶような環境を作っていくことが子育て支援の目的のはず。ちょっとずれている。この(3)を外すか、残すにしてもグローバルはいらないと思っている。

(委員)

2 点ほど確認させていただきたい。総合戦略の 24 P、U I ターン者の数字はべらぼうな数字という話があったが、私もそう思う。先ほどの説明の中ではこの 126 人はすべてU I ターン者という意味合いで説明されたのではないかと思う。ただし、人口ビジョンの方では転入するケースだけではなく住宅新築を理由に転出する方が住み続けるのも加味してい

となっているが、実際には 126 人を U I ターン者で対応するのか、家を建てて出ていかれた人を慰留したものを含めたものなのかというところを確認したい。同時に人口ビジョンの U I ターン者の目標が転出者を加味したものであれば表現を変えた方が理解を得られるのではないか。

もう一点は、総合戦略にいろいろな事業が載っているが、ほとんどが今現在市で行われている事業ではないかと思う。なかには新規があったり、拡充があったりというものがあるが、今やっている事業のなかで人口減少が進んでいるわけなので、そのまま今の事業を列記しても最終的な 3 万人の目標にはなかなか到達できないのではないかという感じがしている。新たな取り組みは、この中で列記してあれば説得力が生まれてくるのではないか。

(会長)

先ほどの学校教育の充実・グローバル人材育成というところの英検 3 級合格者を K P I にするのも疑問に思われたところであろうと思うが、他に意見はないか。

(委員)

先ほどの質問に対する事務局からの返答が本質からずれている。P D C A を回すということを総合戦略で掲げられているのであれば、例えば今企業誘致や立地促進による新規雇用者が 41 人しかいないのを 100 人にする、なぜ今 41 人しかいないのかという問題点を全部出さなければならないというところも、本当に今後行政がきちんといていくのかというところも疑わしい。P D C A だったり、言葉だけを出して、基準値や目標値を定めてはいるけれど、結局今までの総合計画と全く変わらない総合戦略になるのではないか。英検 3 級合格者割合を出す理由を伺いたのではなく、本当に 3 万人の人口を残すのであれば、なぜこの指標にしていいたのか、まずそこが理解できない。

(委員)

最終目的は市民にどれだけ分かってもらえるか。この内容を一般市民にいかに関係するかの、意味を分かっていたかのような施策をしてもらって、今安倍総理が 1 億総活躍といっているが、安来市の場合、4 万人総活躍、一般市民もそこに乗って、一緒になって考える。それが最終的な目的だと思う。このプロジェクトで一番大事なことが、ビジョンをいかに PR するのか

(委員)

先月、事務局にも来てもらって、商工会で転入者の生の声を聴く会を開いた。市が進めていることとかなり乖離していると思った。実際に安来に転入してこられた方にヒアリングを行って、そういう部分を材料にして書くべきではないか。何で安来に来たかという、そういう底辺からやらないと駄目だと思う。

(委員)

先ほど人口ビジョンでネガティブという話があったが、私は総合戦略の中でポジティブにやっていく必要があると思う。総合戦略の中でどれだけ分かりやすく、何を安来市として力を入れて市民に訴えていくのか、夢を見ていただくのかというところが、総花的でわ

かりづらい。私は子育て、住環境、雇用の 3 つが柱だと思う。それを見ていくと確かに項目はあるが、予算措置もあるし、今の事業もあるので行政サイドとしては難しいと部分もあると承知で申し上げるが、これで若い人たちが安来に残って、安来に来て生きていこうか思っただけなのかというところと厳しいと思う。先ほど委員がおっしゃっていたように新規で何をやるんだ、他の自治体と何が違うのだと考えたときに大変申し訳ないが近隣の自治体とあまり差異がないという気がする。安来市はこういう PR がこれまで非常に上手い自治体としてイメージしていたが、ここで今までの力を発揮していただきたい。安来市はこれでやっていくんだというような夢を特に若い世代の方に見せていただきたい。

(委員)

医療・福祉について伺いたい。26P にいろいろ書いてあるが、我々から見ると絵にかいたような餅であって、特に実効性があるようなものはない。例えば地域医療の充実に必要な医師・看護師の養成・確保、また医学生・看護学生に奨学金を与えると書いてあるが、今も多分やっているとは思いますが、安来市に定着するかどうかは、自分が所属していた大学の卒業生たちの動向を見ても、まず不可能だろうと、看護学生についても都会の方に流れていくのは必然だと思うし、どうしたらいいかというところの奨学金制度だけではなく、安来市内にきちっとした医療機関、例えば市立病院をもっと充実させて、器から作り直すと、それくらいのことをしないと、そしてそこに優秀な指導医を招聘して、そこで若い医師・看護師達を育成するということまでいかないと 10 年たっても 15 年たっても状況は変わらないと思う。介護福祉士の方々も、今一生懸命仕事をしていらっしゃるが、恐らく・・・給与の格差も結構なのではないかと思う。重労働の割には給料も上がらないし、卒業生が勤めてもすぐ辞めてしまうという状況は、恐らくこれから先も続く。それから子育てするにしてもやはり医療というものがなければならない。今、安来市においては小児科専門医が 2 名しかいない。その中で多くの子供達の保健指導とかいろいろやっている。絶対数の足りない小児科医等をきちっと招聘されるとか、ベースに沿った医療がきちっとしてないと、子育てとか、安心して年を取っていくことも難しいと思う。

(事務局)

いろいろなご意見をいただいて、まだ回答していないものがあるので、それも含めて回答させていただく。まず、委員からあった U I ターンの 126 名の部分だが、人口ビジョンのところに書いてある通りで、当然 U I ターンで転入者 126 名の方を計算して 4.5 倍ということで入れていくということもそうだが、安来市から転出していかれる方を抑制しないと 3 万人の達成は難しいと思っている。総合戦略の方においては、24P のところで U I ターン、いわゆる移住受け入れ体制の充実というところと、23P のところで住宅の確保をすることによって住宅を理由とした転出を抑制していくと、こちらの二つのもので人口ビジョンでいうところの社会増減マイナスへの対応の大きな柱ではなかろうかと考えている。

(英検 3 級) 指標については、確かに悩ましいところではあったが、我々が考えておっ

たのは子育てをしていくにあたって当然、学校教育の充実とどういった人たちを育ていくのかといったところでグローバル人材の育成といった形で考えておったのが 15 P (3) の施策とご理解いただければと思う。一つの特徴としては、通常 A L T は小中学校に派遣するものだが、安来市においてはこれを幼稚園や認定こども園に巡回指導していく。我々の思いとしては安来で子供を産んでいただいて子育ての中でグローバルな人材として育てていただきたいという思いがあってこの施策を設けている。

委員の医療・介護のところで、現在当市の方で行っている奨学金、今年度から福祉専門学校、介護福祉士のところで挙げている。こちらの方については、ご意見としていただきたいと思う。

以上、3 点について回答させていただいた。

(会長)

委員が言われた医療施設の整備については。

(事務局)

まず介護については、介護保険の事業計画があって、その中で安来市の全体の介護をどういうふうにみていくか、低賃金で働いている人をフォローしていくかということもある。病院の関係になると、総合戦略の中というよりも総合計画、あるいは地域医療のあり方検討委員会なども立ち上がっているので、そういった大きなところで議論をしていくものと思う。ここの中では書ききれていないが、そういうふうなところで安来市全体の地域医療というものは議論していくものだと思う。

(会長)

医療施設の再整備を盛り込むことは可能か。

(事務局)

市立病院はあるが、その他民間の病院もあり、その辺との整合性も図らなければならぬのでなかなか書ききれない。

(会長)

一つの目標として、石見の大田とか江津を見ていると、そういうことを思えば委員のおっしゃる通りのなにか手を打っていかなければならないと思うが。

(事務局)

その点については、地域医療のあり方検討委員会で検討なされるべきものであると思う。

(会長)

総合戦略の中にそれが盛り込めるかどうか。

(事務局)

今すぐに反映できるかは非常に難しい。ただ、今後、委員会は続くわけで、ましてや総合戦略は 5 か年計画なので、その中でまたいろいろ意見が出てくれば見直していくこともあろうかと思う。

(会長)

この中で盛り込むことは難しい。

(事務局)

いろいろな意見を伺わないと。今、初めてこの意見を伺ったので。

(委員)

英検の分だが、ここの中に数値目標として挙げるためには基準値があって目標値がないといけない。基準値があるのが、たまたま英検 3 級だったのではないかという気がする。だから、子供達や保護者に向けての学校施設の良し悪し、充実度、そういうもののアンケートを取ったり、子供達に学校教育のやり方について、勉強の仕方についてアンケートを取ったりして基準値があったとすれば、それを目標値に掲げる方がよっぽどいいだろうと思う。でも多分現在それはないだろう。

医療機関の関係では、私も子育ての中ではどうしても小児科医。私の知り合いのでも小児科に掛かる子供を連れていらっしゃる方がたくさんいるが、どうしても安来で対応ができなくて松江、米子に出ている方が非常に多い。若い人に向けてもっとPRして、安来のまちを好きになってもらう、住んでもらうためには、そこら辺りをここの施策の中になんらか、医療機関も含めて小児科、子供の医療の充実を盛り込んであった方がいいのではないかと思う。

移住者の件だが、住宅の新築を契機に外に出ていく方を抑える人数を含めて 126 人という推移目標を立てられたということではなかったか。もし、そうだとすればこの基準値は違ってくる。この人口ビジョンの中でこれまで住宅新築を理由に転出していた人が安来市内に住み続けるといったケースも加味していると書いてある部分について、126 人の中にその者が入っている、入っていないというところで書き方の表現は全然違ってくる。

(事務局)

今の 126 名というのはあくまでもUIターン等の転入者の人数である。これ以外で市外に転出する方を抑制する必要もある。

(委員)

人口ビジョンの 34P の文言は、加味ではなく抑制ではないか。

(事務局)

加味という表現は相応しくないと思うので、訂正する。

(委員)

全体を見て気になったのはUIターンが 28 名から 126 名という部分で若干違和感があった。先ほどから出ているように 15P 英検の合格者が特に気になった。ここの中で学校の環境整備とかいろいろ書いてあるが、教育の充実というところ、心の教育と言ったらおかしいが、そういったところも充実していくようなことも必要かと思った。すぐこれが直るものかわからないが、英検の数字は変えていただきたい。

(委員)

総合戦略イメージの中に 6 項目挙がっており、その 6 項目のさらに詳細が A3 資料にある

が、それで皆さんが納得してその方向に動くとは考えにくい。これは総花的に書いてあって、役所の中ではどこへ行っても同じようなものを見る。独自性がない。これは人口減問題、特に同じようなことをするわけだから、これで何ができるのか議論になるわけだ。これを見て、私はこれをごんばろうということが本当に出てくるのか。このA3のビジョン全体像を逆さから見てみると、例えばこんな事業を行う、それはこういう目的のために行う、得られた結果はこういうものだ、というふうに言えると思う。その得られた結果をどうやって回すかが抜けている。だから逆に言うところの基本目標 5 項目の中で一番やりたいのはどれになるのか。それとも平均的に同じようにやるのか。

(事務局)

すべてが重要だと思う。その中で力を入れていくのがA3資料で表現した部分だにご理解いただきたい。

(委員)

それは理解できる。内容がいいのもわかる。ただこういうものを動かすには何か柱がないと回っていかないと思う。鳥取県の道路行政の話をしたのはなぜかということ 4、50 年前の知事が鳥取県は過疎地で人口が一番少ないので何か魅力を作らなければいけないということで山間地道路も含めて 2 車線の歩道付を作るという他所ではしないようなことを掲げて実行して、例えばここに書いてある 5 項目がうまく回ったという実績がある。主力がないとこういうものは絶対に回らないという気がする。戦略イメージに 6 項目ある中に医療・福祉が書いていないのは、なぜかと思った。住居環境の末端には医療・福祉関係が書いてあるが、これからの時代、どう考えても医療・福祉がここに載ってこないというのはありえない話ではないかと思う。こういうもののネットワーク、いわゆる医療・福祉、それから人材、地域・・・ネットワーク・・・極端な話が無料化するくらいの意見も出て、そういうのが柱でいろんなものが回っていかないと、こういうものはうまく回らない気がする。

(副会長)

柱というのは二つの意味があり、一つは目玉。例えば、浜田市がシングルマザーに力を入れる。これが人口減全体につながるかはわからないが、目玉として引き付けるものがある。もう一つは総花的ということ。この前も申し上げたが、先ほどの英検の話でも、こじつけて行けば確かに魅力アップになり人が残ったり来たりするかもしれないが、すごく遠い話だ。シングルマザーだとすぐ人が増えるかもしれない。遠い話と近い話・・・全部が同じように並列に書かれていてそこが見えないので・・・強弱に欠けている。メリハリをつける。そういうのが必要だ。

時間もないし国の付き合いでやっているところもあるので、時間の中でとりあえずまとめる。ただ、このままでは動かないし、動かしても本当に人が来るのか維持できるのかわからないので、今後が大事である。今後どういう仕組みを残していくか。いくつかポイントがあり、一つは評価をしっかりとやる。指標を達成したかどうかだけ調べても、ほとんど意味がない。達成しようがしまいが、それを見ないといけない。それはあまりどこもやっ

ていない。私はあるところで総合戦略と総合計画を一緒にやっている自治体の最初の評価に関わったことがあるが、膨大な量でとてもではないが評価できない。例えば、重点的なものを決めて、なぜ達成できなかったとかという評価と全体に網をかぶせて・・・メリハリをつけてやる必要がある。

市民を巻き込んでいかないといけないので、実際にやって動くときに、その仕組みをしっかりとしてけないといけない。

最後にもう一つは、今あることから出発する、今やっている事業、今手に入るデータ、それから出発するのでなんとなく最後にこじつけになってしまう。論理的に上から考えていくと今やっていることと必ずずれるので、スクラップアンドビルドが出てくるはず。今は止むを得ないが、続けていくと駄目なので、今の担当事務局の立場もあるから、どこかで乗り越えなければいけない。これはいわゆる行政改革、あるいは首長のリーダーシップだ。リーダーシップないししっかりした改革を行政の中でやっていくということが今後の大事なことだと思う。

(会長)

いろいろ意見をいただき、なかなか厳しいところもあるが、時間的な問題もある。先ほど出た中でも英検 3 級合格者割合があまりにもクローズアップされすぎている。これについては本当に魅力が伝わるような指標に置き換えていただくよう検討願いたい。それから医療についてもなんらかの見直し、イメージの中に入れるのも含めて検討していただきたい。総合戦略のイメージの中で定住についても、サポートセンター、お試し住宅とさみしいものではあるが、実際この中で出てきたのは環境整備とか住民の誇りとなる歴史・文化の整理というようなものも目玉としてやっていかないといけないということも出たと思う。そういうことを入れていただくことも考えていただきたい。議論の中で今日は出てこなかったが空き家についての対策もおっしゃっていた。空き家バンクというどこの自治体もやっているようなものでは埒が明かないような感じがする。空き家は住宅だけではなくいろいろな施設すべてを含めて総合的な空き家対策をしていくことも考えてもらいたい。最後に雇用のところの一番下の木質バイオマスの促進、総合戦略の中で特に山間地の関係の戦略が非常に少ない気がする。雇用について木材、林業関係、これからもう少し伸びないといけないはずだ。そういったものをただ木質バイオマス促進というだけではなく、木材、林業の新たな工夫、以前すべての施設の木質化を謳われていたこともあるが、なんらか考えていただきたい。

(会長)

来週、議会の方に提出するというので、タイトなスケジュールになってしまっている。その中で、先ほど言われたことをもう少し盛り込んでいただきたい。

その他

(事務局)

いただいたご意見については持ち帰り、内部で検討させていただきたい。総合戦略に盛り込むもの、また、総合計画に盛り込むもの、それぞれあろうかと思う。特に会長がおっしゃった歴史、文化といったところ、空き家の総合的な対策、福祉・医療の関係、そういったところは、大きくは総合計画の方で取り上げていくところもあるので、整理しながら検討したい。

今後のスケジュールだが、総合戦略は来週 13 日に議員懇談会を開催し議会で説明する予定としている。その後、パブリックコメントを実施し、10 月 30 日に全員協議会で承認をいただき決済を取ったうえで公表したい。